

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2009.10.15

NO.194
.....

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|---|---|
| ■ 総会
第 33 回定時総会報告2 | ■ 若手の会
若手の会開催報告8 |
| ■ 理事会だより
第 235 回理事会報告3
第 236 回理事会報告5
第 33 回顧問会・評議員会・
支部役員会合同会議報告7 | ■ 研究会・支部だより
平成 21 年度 第 1 回研究会・
東北支部会のご案内9
平成 21 年度 第 3 回研究会・
南関東支部会のご案内11 |
| ■ 年会
第 33 回年会報告7
第 34 回年会案内 (第 1 次)8 | ■ 編集理事会だより11
■ 広報委員会からのお知らせ14 |

日本科学教育学会 第 33 回定時総会 報告

日 時 2009 年 8 月 25 日 (火) 11:30 ~ 13:00

会 場 同志社女子大学 純正館 S013 教室

次 第

1. 開会の辞 (吉川 厚 副会長)
2. 第 33 回年会実行委員会事務局長挨拶 (余田義彦 実行委員長)
3. 会長挨拶 (吉田 淳 会長)
4. 議長選出
定款第 26 条により吉田 淳会長を議長に選出した。
5. 議事録署名人委任 (吉田 淳 会長)
議事録署名人を余田義彦 (同志社女子大学)、岩崎秀樹 (広島大学大学院) の両会員に委任することを拍手をもって承認した。
総会出席者 71 名、委任状 127 通で定時総会成立を確認した。
6. 審議 (議長 吉田 淳 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (吉岡亮衛・益子典文 理事)
2008 年事業報告書及び 2008 年収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (松原静郎 監事)
監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (吉岡亮衛・益子典文 理事)
2009 年度事業計画書及び 2009 年度予算書 (案) の説明と提案が行われ、第 2 号議案は承認された。
 - 4) 第 3 号議案の提案 (吉岡亮衛 理事)
定款変更の説明と提案が行われ、第 3 号議案は承認された。
7. 表彰
 - 1) 経過報告
学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。 (小倉 康 理事)
 - 2) 表彰 (吉田 淳 会長)
 - 学術賞
・川崎 謙 (高知大学)
 - 論文賞
・鈴木栄幸 (茨城大学)、加藤 浩 (放送大学)
 - 年会発表賞
・縣 秀彦 (自然科学研究機構 国立天文台)
・瀬戸崎典夫 (早稲田大学)、森田祐介 (早稲田大学)、竹田 仰 (九州大学大学院)
8. 次年度第 34 回年会実行委員長挨拶 (岩崎秀樹 広島大学大学院教授)
9. 閉会の辞 (吉川 厚 副会長)
(記録: 稲垣成哲 理事)

議事録署名人

日本科学教育学会第 33 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いないことを証します。

余田義彦 (第 33 回年会実行委員会委員長) 岩崎秀樹 (第 34 回年会実行委員会委員長)

日本科学教育学会第 235 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日 時 2009 年 3 月 14 日 (土) 14:00 ~ 17:00
会 場 (株)内田洋行 潮見オフィス 8 F 会議室
出席者 会長 吉田
理事 飯島、岩崎、荻原、小倉、加藤、佐伯、
坂谷内、丹沢、土田、中山、東原、益子、
美馬、吉岡、吉川
監事 松原
年会企画委員長 高藤
顧問 大木、北原

1. 議事要録(案)の承認

○第 234 回議事要録(案)が承認された。

2. 第 235 回理事会までの電子会議による審議事項

○なし

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○役員用メーリングリスト及び拡大役員用メーリングリストを事務局のサーバで運用開始した(12月12日及び15日)。

○日本学術会議より12月5日に依頼があったアンケート調査「新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査」に回答した(12月25日)。

○学会 HP の役員及び幹事の分担表を2008年度版に更新した(1月9日)。

2) 経理・会員

○入会希望者(～2月28日)の電子メール審査について

事務局からの発議により、12月3日までに入会を希望した3名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(12月10日)。事務局からの発議により、1月13日までに入会を希望した4名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(1月15日)。

事務局からの発議により、2月12日までに入会を希望した3名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(2月21日)。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された16名が正式に入会となった(2月27日)。

○2008年度中間決算について

会計担当より2008年度の中間決算について報告がなされた。

3) 機関誌編集

○編集状況については、以下の報告がなされた。

新規投稿論文(2009.1.27～2009.3.11):6編(内訳:和文;6編、英文;0編)

査読中論文:24編(内訳:担当編集員選定中;1編、第1回査読;9編、再投稿待ち;8編、第2回査読;6編)

掲載決定論文:24編(内訳:研究論文;4編、招待論文;20編)

○第33巻特集号は特集テーマ(案)「科学教育における他者との関わりの分析・支援」として提案があり、組織案等は引き続き検討を進めること、さらに本特集号は第34巻第2号(2010年6月)として刊行するとの説明がなされた。

○「科学教育研究」の機関リポジトリへの対応、及び採択論文 PDF データの取り扱いについて意見が交換され、これらについては引き続き議論継続中であると説明がなされた。

4) 年会企画

○第 33 回年会（京都大会）について

年会テーマと趣旨、学会企画シンポジウム、学会企画課題研究、自主企画課題研究、招待講演「科学教育研究セミナー」などの企画の進捗状況の説明がなされた。

5) 研究会・支部

○研究会開催の現状と今後の計画について報告された。

第 3 回研究会まで順調に企画は進行していることが報告された。今後、5 月には中国・四国支部会が、6 月には東海支部会が開催の予定である。また、次回理事会までに、来年度の開催地区の選定に入る旨が報告された。

6) 広報・IT 化

○レターの発行について

レター 189 号から 191 号が発行された。また、Web サイトからのダウンロード数が少ないことが課題であることが報告された。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 8 名が承認された。

* 現在会員数 1,306 名 年度末退会者 19 名を含む。

(正会員 1,222 名、学生会員 70 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 10 名)

2) 九州支部福岡県の県会長。幹事の変更について

○人事異動にともなう支部役員の変更について承認された。

3) 年会について

○第 34 回年会開催校について決定された。

第 34 回年会の開催校は、広島大学に決定され、今後、詳細を協議していくことになった。

○第 34 回年会開催校決定に伴う年会企画委員が選出された。

4) 特集号について

○次回の特集号の編集計画が承認された。

特集号のテーマ案についての協議の経緯、編集委員会特集部会の組織・構成案の概要が報告されるとともに、編集日程として、2009 年 5 月末に会員への告知、同年 9 月末に投稿締切り、2010 年 6 月発刊予定という計画になった。

5) 事務支局との本年度契約について

○事務支局との 2008 年度契約について、速やかに実質的作業に入ることが承認された。

6) 事務支局との事務委託業務覚書について

○事務業務委託覚書について継続的に検討することになった。

7) 別刷代の改訂案について

○別刷代の値上げが承認された。

新しい別刷代金は、本年（2009 年）9 月 1 日以降に新規投稿受付された論文に適用されることとなった。

8) メールマガジンの実施について

○会員用向けメールマガジンを発行することが承認された。

会員への情報提供のために、メールマガジンをスタートすることが提案され、承認された。なお、送信すべき内容か否かの判断については、当面、広報正副委員長と事務局長が判断し、運用するなかで、その基準を明確にしていくこととなった。

9) その他

○平成 21 年度の筑波大学「科学の芽」賞の後援をすることが承認された。

次回理事会予定

第 236 回：2009 年 6 月 20 日（土）14 時から 17 時 内田洋行(株)潮見オフィス 8 F 会議室



(要点のみ参考掲載)

日 時 2009 年 6 月 20 日 (土) 14:00 ~ 17:00
会 場 ㈱内田洋行 潮見オフィス 8 F 会議室
出席者 会長 吉田
理事 飯島、稲垣、大高、荻原、小倉、加藤
熊野、坂谷内、丹沢、中山、藤岡、益子
吉岡、吉川
監事 松原、鶴岡
年会企画委員長 高藤
顧問 大木

1. 議事要録(案)の承認

○第 235 回議事要録(案)を承認した。

2. 第 236 回理事会までの電子会議による審議事項

○学会賞選考委員会から提案された「年会発表賞候補者」に関して審議し、次の 2 件を同賞に決定することを了承した(4 月 10 日)。

(1) 縣秀彦(自然科学研究機構 国立天文台)

発表題目: 市民とのリサーチ・コミュニケーション『アストロノミー・パブ』の評価

(2) 瀬戸崎典夫(九州大学大学院芸術工学府)、森田裕介(早稲田大学人間科学学術院)

発表題目: 高校生を対象とした VR 教材の効果的な活用場面に関する検討

○事務局宛に教科「理科」関連学会協議会(CSERS)より、全国都道府県の首長、議長、教育長宛の「新学習指導要領理科の実現へ向けての環境整備に関する要望書」に本学会名の記載申請があり、審議の結果、了承した(5 月 19 日)。

○事務局宛に日本科学技術振興財団(JST)より添付文書にて、「青少年のための科学の祭典 2009」への後援名義の使用申請があり、審議の結果、後援名義を承認した(6 月 12 日)。

○会長より「総会の日程に関する定款改定についてのアンケート」調査がなされ、その結果を基に審議し、第 236 回理事会に結論を得ることとした(6 月 18 日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○筑波大学より、3 月 17 日付で後援名義の依頼のあった「2009 年度」筑波大学朝永振一郎記念第 4 回「科学の芽」賞への後援名義の承諾書を送付した(3 月 31 日)。

○中西印刷株式会社との 2008 年度学会事務業務委託契約について契約を完了した(4 月 10 日)。

○日本アソシエーツ株式会社から「日本科学教育学会学会賞に関する情報提供」の依頼があったが、情報提供をしないこととした(4 月 23 日)。

○2009EASE より、当国際会議の CFP が届いた(4 月 30 日)。

○NII-ELS より、平成 20 年度 NII-ELS(電子図書館)の還元金についての書類が届いた(5 月 13 日)。

○日本学術会議会より、5 月 1 日付けのメールで「研究の現場において研究を進める上で支障になっている事項について(照会)」が届いた(5 月 22 日)。

2) 経理・会員

○入会希望者(～6 月 12 日)の電子会議審査について

事務局からの発議により、3 月 13 日までに入会を希望した 4 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(3 月 25 日)。

事務局からの発議により、4 月 30 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(5 月 12 日)。

事務局からの発議により、6月1日までに入会を希望した4名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月8日)。

事務局からの発議により、6月5日までに入会を希望した5名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月19日)。

事務局からの発議により、6月12日までに入会を希望した5名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月19日)。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された17名が正式に入会となった。ただし、9名は2009年度からの入会となる(6月11日)。
○2008年度収支決算の状況について説明された。

3) 機関誌編集

○査読状況

新規投稿論文(2009.5.16～2009.6.12):9篇(内訳:和文9篇、英文0篇)

査読中論文(6月12日現在):24篇(内訳:5篇:1回目、5篇:再投稿待ち、6篇:2回目、1篇:査読員選定中、3篇:担当編集委員選定中、4篇:担当編集委員による総合判定中)

掲載決定論文(6月12日現在):11篇(内訳:研究論文9篇、プラザ1篇、資料1篇(33-2:8篇、33-3:3篇))

○学術機関リポジトリへの対応に関する協議の経緯が報告された。

4) 年会企画

○第33回年会(京都大会)の準備状況の詳細が説明された。

5) 研究会

○平成20年度第4回(鳥取大学)、第5回(岐阜大学)研究会の報告がなされた。

6) 広報・IT化

○メールマガジンの運用について、試験運用における課題の確認及び今後の規定整備等の検討を開始することとなった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 35名の承認を求める。

*現在会員数1,265名 年度末退会者40名を含む。

(正会員1,193名、学生会員72名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名)

2) 学会賞について

○本年度学術賞、論文賞、教育実践賞、奨励賞について審議し、本年度は学術賞1件、論文賞1件を決定した。

(1) 学術賞を贈呈する。

川崎 謙(高知大学教育学部)

業績:科学教育における言語学的相対化と比較科学論の構築

(2) 論文賞を贈呈する。

鈴木栄幸(茨城大学)、加藤 浩(放送大学)

受賞論文:社会的ネットワーキングに着目したプレゼンテーション教育手法「マンガ表現法」の提案、科学教育研究、第32巻、第3号、pp.196-215、2008

3) 2009年度研究会の開催方針について

○研究会開催回数については、支部の意向に即して弾力化することが決定された。

4) 定款の変更について

○第4章総会第22条(召集時期)の変更について、第33回総会の議案とすることとした。

5) 第33回定時総会の議事案件について

第1号議案

I 2008年度事業報告書

(1) 機関誌等

(2) 年会

(3) 学術交流等

(4) 研究会・支部活動

(5) 学会賞

(6) 学会IT化

II 2008年度収支決算書

第2号議案

I 2009年度事業計画書

(1) 機関誌等

(2) 年会

(3) 学術交流等

(4) 研究会・支部活動

(5) 学会賞

(6) 学会IT化

II 2009年度予算書(案)

第3号議案

定款の変更

5) 後援

○広島大学大学院国際協力研究科による国際シンポジウム「科学技術の公衆理解と環境問題に関する国際会議（平成21年9月7・8日、広島国際会議場）」への後援を承認した。

6) その他

○学会財政改善等を検討するワーキンググループの設置をすることを承認した。

次回理事会予定

第237回：2009年8月24日（月）15時から16時 同志社女子大学（今出川キャンパス）S501室

第33回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告

日 時 2009年8月24日（月）16:00～17:00
会 場 同志社女子大学 純正館4階S401

第33回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（3名）、評議員（7名）、支部役員（2名）、役員（16名）、年会企画委員長（1名）が出席して開催された。吉田会長の挨拶に続いて、吉岡理事（庶務）及び益子理事（経理）から、事業報告、事業計画、収支決算・予算案等について説明が行われた。また、吉田会長から、学会運営における現状と課題の整理とともに、総会開催に関わる定款の変更案が紹介された。参会者からは、国際交流等について質問や意見が出された。

年 会

第33回年会 開催報告

日本科学教育学会第33回年会は、2009年8月25日（火）～26日（水）の2日間、京都の同志社女子大学 今出川キャンパス 純正館において、「次世代の科学力を育てる」という年会テーマのもとで開催されました。

参加者数は393名（会員275名、非会員118名）でした。科学教育に関する研究分野に取り組む会員が集い、学会企画シンポジウム、実行委員会企画フォーラム、学会企画課題研究、自主企画課題研究、一般研究発表、インタラクティブセッションなど全部で217件の研究発表が行われました。各セッションの会場では相互に最新の成果を持ち寄って活発な質疑応答が行われ、特にシンポジウム「次世代の科学力を育てる」では活発な議論が続きました。

懇親会は25日の夕刻に同志社大学の寒梅館にあるカフェレストランで開催しました。定員に近い140名もの参加があったため、やや窮屈な会場での懇親会となりましたが、親しく膝を突き合わせて歓談・交流する様子があちこちで見られ、目的を果たせたと思っております。

本学会の年会は例年3日間の日程で行ってききましたが、今回は2日間の日程で行いました。タイトなスケジュールのプログラムとなりましたが、昼食を取りながら総会を行うなど工夫した結果、2日間の日程で例年と変わらない数の発表をこなすことができました。参加者数は例年並みでしたが最初から最後まで通して参加する人が増えたため、どこのセッションへ行っても会場がそこそこ埋まっており、これまでの大会で懸案であった閑古鳥が鳴くセッションは見られませんでした。

年会運営については概ねスムーズにこなせたと思いますが、反省事項が2つ残りました。一つは年会発表賞候補者の推薦用紙の配布ミスです。学会賞担当理事と善後策を相談をさせてい

ただき、バ切りを延長するとともに、参加された会員全員へメールで推薦用紙を送り、推薦をお願いさせていただきました。学会および会員の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

もう一つは、web 参加申込システムの不具合に起因するトラブルです。申し込みをされた方の半数近くへ受付確認メールが届かず、ご心配とご迷惑をおかけしました。数週間で問題は解決したのですが、それまで年会実行委員会へ問い合わせが相次ぎ、対応に追われる毎日が続きました。今後同様の問題を起こさないため、年会企画委員会で事前の試験運用の徹底をお願いしたいと思います。

年会開催に当たりまして、広告や展示で多大なご協賛をいただきました財団、企業、団体に心よりお礼申し上げます。また、企画や運営についていろいろご支援いただきました年会企画委員会の皆様、特に、委員長の高藤清美先生と担当理事の佐伯昭彦先生、加藤 浩先生、第 32 回年会実行委員長の宮地 功先生にお礼を申し上げます。更に、年会が滞りなく終了したのは、各セッションの座長、司会をしていただきました方々とそれを支えた会員各位の協力の賜であると思います。ありがとうございました。

年会開催に当たりましては学校法人同志社、同志社女子大学など多方面からの理解と協力を得ましたことに対しまして、謝辞を申し上げます。また、京都での開催という地縁だけで快く協力を申し出て下さり、一緒に汗を流して下さいました近隣の大学にお勤めの年会実行委員の皆様にも感謝します。精力的に年会運営に当たってくれた学生諸君にも感謝します。最後に暑い季節に熱い議論を交わすために、京都へご参集いただきました会員の皆様にお礼を申し上げます。

この第 33 回年会が、日本科学教育学会の今後の発展、京都府近隣の科学教育全体の振興、皆様の教育研究に少しでも貢献できたのであれば、年会実行委員会として、これに勝ることはありません。

(日本科学教育学会第 33 回年会実行委員会委員長 余田義彦)

第 34 回年会 開催案内

1. 日程：2010 年 9 月 11 日（土）～ 12 日（日）
2. 会場：広島大学（東広島キャンパス：教育学研究科、学士会館）
〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1
・アクセス方法
JR 西条駅前からバス「広島大学」行に乗り、「広大北口」で下車。
（所要時間約 20 分、詳細は下記 URL 参照）
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>
3. 連絡先：〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院教育学研究科
岩崎秀樹 E-mail：jsse34@hiroshima-u.ac.jp

若手の会

第 33 回年会・若手の会 開催報告

今年の「若手の会」は、年会の前日 8 月 24 日（月）の夜に、京都市内で開催しました。参加者数は、企画担当委員を含めて、計 13 名でした。20 代、30 代に限らず、さまざまな年齢層の方々にご参加頂きました。

会合では、若手同士のネットワークづくりを目的として、お互いの興味・関心や今後の展望を語り合いました。参加者のみなさんからは、大変エンジョイすることができましたというお

声も多数頂きました。ご参加頂いたみなさま、ご支援頂いたみなさまに感謝申し上げます。

今年の経験を踏まえて、来年度の企画を考えていきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

■第33回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）*kaoyama@aeu.ac.jp*

松浦拓也（広島大学）*takuyam@hiroshima-u.ac.jp*

三宅志穂（神戸女学院大学）*miyake@mail.kobe-c.ac.jp*

山口悦司（宮崎大学）*etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp*

研究会・支部だより

平成21年度 第1回研究会・東北支部会のご案内

平成21年度日本科学教育学会第1回研究会・東北支部会を次の要領で開催いたしますので、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

[テーマ] 子ども達の未来を拓く科学教育

[会場] 岩手大学学生センター棟（A会場：G2大教室・B会場：G21講義室）

[日程] 平成21年11月7日（土）

9:30～10:00 受付
10:00～10:10 開会
10:10～10:55 研究発表（午前の部 前半）
10:55～11:05 休憩
11:05～12:05 研究発表（午後の部 後半）
12:05～13:15 昼休憩・支部懇談会
13:15～14:30 研究発表（午後の部 前半）
14:30～14:40 休憩
14:40～15:55 研究発表（午後の部 後半）
15:55～16:00 閉会

※発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

※参加費は無料。（会員ではない方からは500円をいただきます）

[担当及び連絡先]

岩手大学教育学部 名越利幸 *nagoshi@iwate-u.ac.jp*
藤崎聡美 *skuroda@iwate-u.ac.jp*
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-33
TEL: 019(621)6547 FAX: 019(621)6560

[研究発表]

A会場 座長：名越利幸（岩手大学教育学部）

A 01 10:10 - 10:25 遊園地の乗物を活用した9年間の青空科学教室（II）

○木幡大河・木村真人・菅原布美・佐藤真里（岩手大学教育学部）・澤内大樹（岩手大学大学院）・八木一正（岩手大学教育学部）

A 02 10:25 - 10:40 小学生の物理力アップの実践授業（II）

○田口朝子・木村真人（岩手大学教育学部）・グリバハル・マホムテ（岩手大学大学院）

八木一正 (岩手大学教育学部)

A 03 10:40 - 10:55 介護ケア動作を力学で分析 (II)

○木村真人・菅原布美・木幡大河・澤村省逸・八木一正 (岩手大学教育学部)

10:55 - 11:05

休憩 (10分)

A会場 座長：三井隆弘 (岩手大学教育学部)

A 04 11:05 - 11:20 中国ウイグルでの物理を強くする教育実践

○グリバハル・マホムテ (岩手大学大学院)・田口朝子・木村真人・八木一正 (岩手大学教育学部)

A 05 11:20 - 11:35 Processingによる簡易な制御教育環境

○菊池拓巳 (岩手大学大学院)・伊藤 敏 (岐阜聖徳学園大学)・井上祥史 (岩手大学教育学部)

A 06 11:35 - 11:50 リンゴによるバイオエタノール合成および教材化への応用 (II)

○澤内大樹 (岩手大学大学院)・木村真人・田口朝子・佐藤真里・八木一正 (岩手大学教育学部)

A 07 11:50 - 12:05 植物由来染料 (草木染め) の各種繊維に対する染着特性

○小川原紗希・星川幸子・天木桂子 (岩手大学教育学部)

B会場 座長：名越利幸 (岩手大学教育学部)

B 01 11:05 - 11:20 中学校理科における気体発生実験の教材研究 ～T字管を用いた系統的定性分析の試み～

○福島俊介 (岩手大学教育学部)・坂本有希 (岩手大学教育学部附属中学校)・村上 祐 (岩手大学教育学部)

B 02 11:20 - 11:35 教員養成における「ものづくり」のスキルアップ (II)

○佐藤真里・木幡大河・菅原布美 (岩手大学教育学部)・グリバハル・マホムテ (岩手大学大学院)・八木一正 (岩手大学教育学部)

B 03 11:35 - 11:50 GPS・気象センサーつきデータロガーを用いた移動気象観測
-自転車による局地気象観測の事例-

○小笠原悠人・斉藤理絵・名越利幸 (岩手大学教育学部)

B 04 11:50 - 12:05 生きる力を育てる野鳥の巣箱観察 (II)

○菅原布美・佐藤真里・木幡大河 (岩手大学教育学部)・澤内大樹 (岩手大学大学院)・八木一正 (岩手大学教育学部)

12:05 - 13:15 昼食休憩、日本科学教育学会東北支部総会 (B会場)、役員協議会 (B会場)

A会場 座長：中西貴裕 (岩手大学情報メディアセンター)

A 08 13:15 - 13:30 生活の中で素で実践している物理

○斎藤暁久 (岩手県立葛巻高等学校)

A 09 13:30 - 13:45 階上町小学生の身体活動と肥満との関連

○三井隆弘 (岩手大学教育学部)

A 10 13:45 - 14:00 小学校理科「流水の働き」に関する地域教材の開発 -「石ッコ賢さん、豊沢川を探る」-

○茂庭隆彦 (岩手県立総合教育センター)

A 11 14:00 - 14:15 子ども達の感性を耕す科学教育 ～センス・オブ・ワンダーの喚起を志向して～

○田口瑞穂 (大仙市立神宮寺小学校)・藤田静作 (秋田大学教育文化学部)

A 12 14:15 - 14:30 課程認定学部学生に「理科教育・自然科学」へ目を向けさせる試み
-「理科教育法」での“理科関係新聞記事の切り抜き (コメント付記)”提出を通して-

○田中吉兵衛 (岩手大学教員養成機構)

14:30 - 14:40 休憩 (10分)

A会場 座長：浦野 弘 (秋田大学教育文化学部)

A 13 14:40 - 14:55 「金属の体積変化は水よりも小さい」を確かめる教材を用いた授業
～小4の単元「もののかさと温度」における多面的な教材使用～

○藤崎聡美 (岩手大学技術部)・黄川田泰幸 (岩手大学教育学部附属小学校)・尾崎尚子 (盛岡市立緑が丘小学校)・村上 祐 (岩手大学教育学部)

- A 14 14:55 - 15:10 「学校气象台」の構築と地域連携ネットワーク
 ○名越利幸・梶原昌五・井上祥史（岩手大学教育学部）・中西貴裕（岩手大学情報メディアセンター）・田中吉兵衛（岩手大学教員養成機構）・藤崎聡美・野田 賢（岩手大学技術部）・黄川田泰幸・高橋長兵（岩手大学教育学部附属小学校）・及川 敏（盛岡市立仙北小学校）・石川浩治（東京大学海洋研究所）
- A 15 15:10 - 15:25 学校气象台の構成 ～データの収集とリモートメンテナンスの実現～
 ○中西貴裕（岩手大学情報メディアセンター）
- A 16 15:25 - 15:40 学校气象台を活用した小学校における授業実践 ー天気による気温・湿度の日変化を事例としてー
 ○熊谷詩子・名越利幸（岩手大学教育学部）・黄川田泰幸（岩手大学教育学部附属小学校）
- A会場座長：名越利幸（岩手大学教育学部）
- A 17 15:40 - 15:55 中学校への「気象の出前授業」を通して ーその概要と生徒の観察記録ー
 ○浦野 弘（秋田大学教育文化学部）

平成 21 年度 第 3 回研究会・南関東支部会のご案内

- [テーマ] 実社会・実生活との関連を重視した科学教育（仮）
- [主 催] 日本科学教育学会南関東支部
- [後 援] 相模原市教育委員会（予定）
- [日 時] 平成 22 年 2 月 20 日（土）
- [会 場] 麻布大学 獣医学部棟 7 階会議室
- [担 当] 岡本弥彦・福井智紀（麻布大学）
- [連絡・問い合わせ先]
 〒 229-8501 神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71
 麻布大学 生命・環境科学部 TEL(直通) & FAX 042-769-2524（福井智紀）
 E-MAIL fukui@azabu-u.ac.jp（福井智紀）
- [発表申込締切] 平成 21 年 12 月 20 日必着
- [原稿締切] 平成 22 年 1 月 20 日必着
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。
- [参加費] 学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。ただし、相模原市内の学校関係者は無料です。

編集理事会だより

平成 20 年度第 3 回編集理事会報告

平成 21 年 6 月 20 日（土）11 時 00 分～14 時 00 分、平成 20 年度第 3 回編集理事会が（株）内田洋行潮見オフィス 8 F 会議室において開催されました。

まず、平成 20 年度第 2 回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。第 32 巻第 4 号特集の吉川編集部会長から特集「科学的リテラシー」刊行の報告がありました。平成 20 年度の刊行としては、第 33 巻第 2 号も近日中に印刷が可能になり、予定していた 5 号分がすべて刊行される運びとなりました。現在の審査状況は次の通りです。

新規投稿論文（2009.5.16～2009.6.12）が9編（和文；9編、英文；0編）、査読中論文が24編（担当編集員選定中3編、査読員選定中1編、第1回査読5編、再投稿待ち5編、第2回査読6編、最終判定中4編）、掲載決定論文が11編（研究論文9編、プラザ1編、資料1編）。掲載決定状況などについては、別表をご覧ください。

続いて以下の6点について審議が行われました。

- (1) 平成21年度予算について、「科学教育研究」の印刷や発送に関わる予算の確認が行われました。また中山担当理事から別刷りの金額について、すでに「科学教育研究」誌等においても周知されている通り、平成21年9月1日以降の投稿受付分から値上がりすることが報告されました。
- (2) 「科学教育研究」投稿論文における「問い合わせ先」の扱いについて、現状の報告と審議が行われました。現在は「問い合わせ先」に掲載する連絡先には会員・非会員の制限が明示されていませんが、今後は、「問い合わせ先」には筆頭著者（学会員でなければならない）の連絡先を記載していただくことに決定しました。
- (3) 「科学教育研究」の英文投稿規程の点検と見直しが行われました。点検の結果、和文と英文の投稿規程の間にずれがあり、それは先の投稿規程改定の際に和文において削除した条項(第12条)が、英文においては削除されていなかったためであることを確認しました。そのため、英文投稿規程の第12条を削除するとともに、第13条以降の番号を繰り上げる対応をとることと了承されました。また、英文投稿規程のWebサイトへの掲載も合わせて対応を進めることが決定されました。
- (4) 査読用Webサイトにおける「査読の仕方」のファイルのリンクについて審議が行われました。中山担当理事から、2007年9月まで使用されていた「査読の仕方」の内容に加筆修正した文書の提案があり、その内容について確認が行われ、基本的に原案通り了承されました。ファイルのリンクについては、査読用Webサイトのログイン後の画面からリンクがはられることに決定しました。
- (5) 「科学教育研究」掲載論文の機関リポジトリへの対応について前回の編集理事会からの継続審議が行われました。機関リポジトリに登録することへの許可は行わず、代わりに 刊行か

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成21年6月12日 現在）

	新規投稿論文数(篇) 審査中(篇)				掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2008年 7月	1				3 (32-3)				2	
8月	7				1 (32-3)				1	
9月	7									
10月	8	1			3 (32-3) 1 (33-1)		1 (32-3)		1	
11月	5	2			0 (32-4) 1 (33-1)		1 (32-4)		2	
12月	3	1			0 (32-4) 3 (33-1)		3 (32-4)		2	
2009年 1月	6	2			1 (32-4)		2 (32-4)		1	
2月	5		22	4	1 (32-4) 1 (33-2)	1 (33-2)	6 (32-4)		7	
3月	5		21	4	2 (33-2)		5 (32-4) 2 (33-1)		1	1
4月		1	16	4	4 (33-2)				1	
5月	6		17	4	2 (33-3)				3	
6月	3		18	3		1 (33-3)			1	

ら1年経過した後にCiNii上で無料公開する方向で検討し、これについて理事会からの意見を聴取しつつ、さらに具体的な案を作成することになりました。

(6)「科学教育研究」第34巻2号の特集について報告と議論が行われました。第31巻、第32巻における特集担当の2名の部会長から編集の進め方についての留意点が報告されて次の特集に向けての留意点が協議され、本特集担当の鈴木栄幸部会長から現状と今後の計画についての報告が行われました。また、さらにその次となる第35巻での特集テーマや内容についても意見交換が行われ、今後さらに検討を進めることになりました。

最後にその他の議案として、査読に関して、現在のシステムでは担当編集委員が著者に送った判定文の内容を査読員が確認できない問題について、議論が行われました。この点については、現状ではいくつかの問題が指摘されていますが、当面は現状の方法で対応を続ける方向となりました。

次の編集理事会は、年會が行われる同志社女子大学今出川キャンパスで平成21年8月24日(月)に行われることになりました。

平成21年度第1回編集理事会報告

平成21年8月24日(土)14:00～15:00、平成21年度第1回編集委員会が同志社女子大学今出川キャンパス純正館5階S503教室において開催されました。今回の編集委員会は、第33回年會の前日に、年會の開催校において、原則的にすべての編集委員の参加のもとで行われました。

まず、平成20年度第3回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文(2009.6.13～2009.8.8)が5編(和文5編、英文0編)、査読中論文が15編(担当編集委員選定中1編、第1回査読中3編、再投稿待ち4編、第2回査読中4編、最終判定中3編)、掲載決定論文が11編(研究論文9編、プラザ2編)。掲載決定状況などについては、別表をご覧ください。

続いて、以下の4点について審議が行われました。

(1)「科学教育研究」の編集状況に関わって、掲載決定率について意見交換が行われました。先の査読規程の改訂で査読回数が3回から2回に変更されたことによる採択率への影響について委員から質問があり、現状で採択率は上がっているがそれが直接的な要因かはわからないが、1回目の査読で以前よりも緻密なコメントがなされていることが良い方向に影響していると推測されるとの回答がなされました。また、査読回数の変更により、論文誌の発行ペースも順調になってきていること、査読遅れも改善されてきていることが報告されました。

(2)「科学教育研究」掲載論文の機関リポジトリ登録への対応について、審議が行われました。まず、中山担当理事からこの問題への対応についていくつかの案が報告されたあと、委員による意見交換がありました。学会員のメリットや財政的問題についていくつかの意見が出されました。それを踏まえ、今回の理事会には、編集委員会の総意に基づく案作りの方向性を示すこととして、継続審議となりました。

(3)第35巻「科学教育研究」の特集のテーマについて、報告が行われました。現状では「統計教育」が有力であることが中山理事より報告されました。これをテーマとした場合の担当者について、意見交換が行われ、次回11月の編集理事会での決定を目指すという方向で了承されました。また、テーマは「統計教育」に決定しているわけではなく、ほかのテーマの可能性についても編集員からの意見を募集中であるということも合わせて伝えられました。

(4)第34巻第2号の特集について、鈴木特集編集部会長より報告と連絡がなされました。

一般論文の投稿締め切りは9月30日で、年度内に査読完了になるようにします。招待論文は数学教育と理科教育から各1編ずつの計2編を予定しています。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成21年8月8日 現在）

		新規投稿 論文数(篇)		審査中(篇)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可 論文数	
		和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載 不可	辞退
2008	8月	7				1 (32-3)				1	
	9月	7									
	10月	8	1			3 (32-3) 1 (33-1)		1 (32-3)		1	
	11月	5	2			0 (32-4) 1 (33-1)		1 (32-4)		2	
	12月	3	1			0 (32-4) 3 (33-1)		3 (32-4)		2	
2009年	1月	6	2			1 (32-4)		2 (32-4)		1	
	2月	5		22	4	1 (32-4) 1 (33-2)	1 (33-2)	6 (32-4)		7	
	3月	5		21	4			5 (32-4) 2 (33-1)		1	1
	4月		1	16	4	4 (33-2)				1	
	5月	6		17	4	1 (33-3)	1 (33-3)			3	
	6月	6		22	1	3 (33-3)	2 (33-3)			1	
	7月	1		14		4 (33-3)				5	
	8月	1		15							

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第194号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会webサイトにある「お問い合わせ」(webメール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：東原義訓（信州大） 荻原 彰（三重大）
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 二宮裕之（埼玉大） 土田 理（鹿児島大学）
 丹沢哲郎（静岡大） 渡辺政隆（科学技術振興機構）
 小倉 康（国立教育政策研） 久保田善彦（上越教育大）
 幹 事：福井智紀（麻布大） 茅野穂穂（信州大学） 平野俊英（愛知教育大）

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : jsse@nacos.com

□編集事務局（論文投稿・査読編集） 中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : jsse-hen@nacos.com

□編集事務局（論文投稿・査読編集） 中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会